

# 国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所  
〒259-1293 平塚市土屋 2946  
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス  
TEL 0463-59-4111 (内線 2200)

「豊島の地域再生化についてー現代アートと豊かな食を通じた「安心」と「自立」の島を目指してー」

中見 真也

皆さん、「豊島(てしま)」という瀬戸内海に浮かぶ島をご存じでしょうか。

豊島は、香川県小豆島郡土庄町に属する人口約800人前後の小さな島です。

この豊島を訪れるには、香川県高松市にある高松港からフェリーで35分ほどで到着します。

「豊かな島=豊島」の名の通り、瀬戸内海の島では、唯一、壇山の山頂から流れ出る湧き水により、棚田が現存し、そこで収穫される米は、とても美味しく、また、海で取れる魚や蟹なども新鮮で、美味です。秋には、名物の「渡り蟹」が取れ、観光客を楽しませてくれます。もちろん、新鮮な野菜や果物も豊富に取れ、中でも、イチゴ農家の多田さんが作る「豊島イチゴ」や、みかん農家の山本さんが作る「豊島みかん」は、絶品です。是非、皆さんが豊島を訪問された際には、これら名産品の数々をご賞味頂きたいです。

図：豊島の風光明媚な風景（豊島美術館と棚田）



出典：中見撮影（2020）

2018年4月より、専修大学商学部の大崎恒次准教授、大阪市立大学経営学研究科圓丸哲麻准教授と3人で、科研費基盤C(商学)にて、「豊島の地域再生化に関する研究」を継続研究しています。本研究を始めようと思った背景としては、2017年3月、全国紙に掲載されていた豊島事件に伴う産廃の原状回復が完了したという記事を読んだことがきっかけでした。都会から持ち込まれた約56万トンにも及ぶ大量の産廃物(ごみ)が、ある一人の悪徳産廃業者の私利私欲のために、豊島に持ち込まれ、その産廃物を産廃業者が不法に燃やし、結果、豊島住民の健康を著しく損ね、世間からは、「ごみの島」という風評被害をもたらしたのです。

上記事件を踏まえ、研究者として、「豊島の地域再生化は今後どうあるべきか？」をこの2年半近く、住民の立場に立ち、一緒になって対話を繰り返し、共に、「あるべき姿」を模索してきました。具体的には、豊島連合自治会、3自治会の幹部、町議、年齢層の違う住民、行政(土庄町)、福武財団、NPO、地元企業(東洋オリーブなど)など、かなりの数の方々や「豊島の未来の姿」をワークショップやデプスインタビューなどを通じ、模索してきました。この2年半の研究で、おぼろげながら見えてきた豊島再生化の姿とは、「食と現代アートをベースにした住民の皆さんが、安心、安全で暮らしていける福祉の島」なのかと個人的に思っています。引き続き、上記豊島に関わるステークホルダーと一緒に、「豊島という場における価値共創」を通じ、本研究を続けていきたいと考えています。

私は、普段、企業と顧客間を対象としたマーケティング戦略、消費者行動研究、流通論に関する研究をしています。しかし、上記地域再生化研究のよう

に、少子高齢化による地方や離島における過疎化、公害に伴う風評被害に苦しむ地域は、日本全国にはまだまだたくさんあります。我々が、この2年半で培ってきた理論的研究成果を今後はさらに地域を拡大し、上記過疎化や公害で苦しむ地域のために少しでも役立てていきたいと考えています。

本学経営学部に4月に着任し、自身が担当する2年生のゼミの学生にもマーケティング、消費者行動、流通論の楽しさを伝え、彼らと共に、上記豊島のような風評被害に苦しむ地元住民のために、我々は、一体、何が出来るのかを考え続けていきたいと思

ます。20世紀型の大量生産、大量販売、大量消費を中心としたマス・マーケティングの時代は終わり、持続可能な社会をいかに構築するのかを意識した21世紀型のサステナブル・マーケティングへの転換はすでに始まっています。一研究者として、地域活性化・再生化、健康経営、オムニチャネル・DX(デジタル・トランスフォーメーション)を意識した働き方改革等、社会課題に取り組む「サステナブル・マーケティング」に今後も挑戦していきたいと考えています

(所員/なかみ・しんや)

---

## 会計学の教育方法

尻無濱 芳崇

私は2020年4月に神奈川大学経営学部に着任した。今年度はゼミの担当はなかったが、来年度からは担当する予定であり、新たに担当する講義科目もある。ゼミや新たな講義科目の内容を考える際に、会計学の様々な教育方法について検討した。ここではそれを紹介する。

### 伝統的な教育方法

ここでは、簿記の技法や財務会計の理論を学生に教授し、学生に問題演習をしてもらうことで理解してもらうという方法を、伝統的な教育方法と呼ぶ。簿記や財務会計については優れた教科書が数多く存在し、その内容を体系的に教えることが可能である。伝統的な教育方法により、学生は財務諸表の背後にある会計学の理論を体系的に理解することができる。それと同時に、財務諸表の作成や分析を可能とする知識を身に付けることができる。その有効性は、大学で会計学を学んだ卒業生が各界で活躍していることから明らかといえるだろう。

ただ、この方法は理論より実例を知りたいという学生には不評である。また、会計学の特性上、数字を常に扱うので、数字に弱い学生は会計学に苦手意識を持ってしまう。さらに、基礎的な内容から発展的な内容へと積み上げ型で教育するため、途中でつまづいた学

生が会計学に対して苦手意識を持ち、そのまま会計学を敬遠してしまうこともある。

### ビジネス創業型の会計教育

伝統的な教育方法を補完する新たな会計教育の方法として、近年ビジネス創業型の会計教育に注目が集まっている(飛田 2014)。これは、学園祭などを起業の場に見立て、教員や学外の専門家(税理士・会計士、司法書士、コンサルタントなど)の支援を受けながら、学生が一丸となって事業の構想、事業計画の作成、資金調達、店舗運営、予算管理、財務諸表の作成、株主総会の開催、会社の解散までを行うという演習形式の授業である。学生にとっては、自分たちの立ち上げたビジネスの活動が会計上でどう表現されるかを実感でき、ビジネスと会計のつながりをよく理解できる演習である。また、簿記や財務諸表作成だけでなく、原価計算や予算管理などの管理会計の重要なトピックも同時に学習できる。理論より実践を通じて学ぶというタイプの学生や、数字に弱い学生は、この方法を通じて会計学を学ぶことで苦手意識を克服できる可能性がある。筆者も前任校でこの形式の演習を行い、高い教育効果があると感じている。

しかし、この方法にはいくつか問題がある。まず、教員も学生もかなりの時間を費やすことになる。事業

計画の作成や資金調達に向けての計画づくりのために授業外で集まることもあり、学園祭当日の拘束時間も長い。また、1年以内に企業は解散してしまうので、カバーできる会計学の論点が少ないのも問題である。例えば有形固定資産の減価償却のような基本的な論点でさえ、この演習ではカバーできない。

#### そのほかの方法と今後の会計教育

そのほかにも、慶應ビジネススクールで伝統的に活用され、近年はTwitterなどで一部の公認会計士が行っている会計クイズ型（比例縮尺財務諸表型）の会計教育もある。ボードゲームのモノポリーを利用した簿記教育や、ペーパータワーによる会計教育というもの

までである。どの方法も学生にとってはとっつきやすい内容となっている。ただ、いずれも時間がかかる、体系的な教育ができないといった問題点があると筆者は考えている。

伝統的な会計教育の方法と上記のいくつかの方法を組み合わせ、高い効果を持つ教育を講義やゼミで行いたい。

#### 参考文献

飛田努(2014)「模擬店出店を通じた会計教育の事例：福岡大学商学部における創業体験プログラムの取り組み」『会計教育研究』2, pp. 32-40.

(所員／しりなしはま・よしたか)

### 「コロナ 19 時代の国際経営研究」

徐 寧教

2020 年は日本にとって、東京にとって良い 1 年になるはずだった。だが、その予想は見事に外れてしまった。コロナ 19 という未曾有の病魔が発生し、多くの人々が命を落とし、苦しめられている。さらにその収束もいつになるか見えない事態になってしまった。このような時代でも学者は研究を続けなければならない。しかし一言で研究といっても「ニュー・ノーマル」と謳われる現在、過去と同じような研究をすることは難しいだろう。

今まで私は、研究調査のため年に数回海外に出てきた。海外で活躍する日本の多国籍企業、そして海外の現地企業などの現場を訪問して調査してきた。多様な国に訪問し、大学の休みの際はどこか海外調査に行くことが普通だった。私は大学の時から経営の現場を踏むことが大事だと教わってきたので、できるだけ多くの現場を訪れようと心がけてきた。このような研究スタイルは実際の多国籍企業の行動を理解するには効果的だが、今の時代には難しくなってきた。海外に渡ること自体が困難になってきたからだ。

では、この時代にどう「自分の研究」を続けていくのか。これは他の先生方各々独自の方法を持っていらっしゃるだろう。私は最近昔の調査ノートを見返すということをしている。きっかけは他でもなく、大学の

広報の仕事だった。大学のホームページに教員の情報を掲載するための事前アンケートに答えているなか、「ゆかりのある物」という項目があった。説明では「愛用している物、思い出の品、蒐集している物、ご趣味にまつわる物、ご愛読書、ご著書など」だという。何を挙げればいいのか悩んだ末、思い出したのが調査ノートだったのである。



調査ノートの一部（一番上は 2011 年ブラジル調査のノート）

調査の際にはノートを持ち、聞いた話、見たこと、感じたことをすべてノートに記録する。そして、記録したものは調査が終わってからパソコンを使って清書する。なので、調査ノートはすべてパソコン上のデータとして残っている。しかし清書作業で漏れてしまう情報もある。調査ノートは殴り書きであり、文脈がわからなく、文章になっていない文字も多い。それらを辻褃合わせて整理するため、どうしてもノートの原文そのままという訳にはいかない。調査ノートはアナログの生のデータであり、パソコンの調査記録ファイルはデジタルの整理されたデータと言えるだろう。広報

の事前アンケートに答えてからノートの写真を撮り、昔の生データを読み返してみた。昔の現場の記憶が少しずつ蘇ってきた。当分はこれで楽しく「自分の研究」ができるのではないかと期待している。

いつまで海外に行けない日々が続くのかはわからない。けど、そんなに長くはないだろう。今後海外調査に行ってフレッシュなデータを仕入れるのを楽しみにしながら、今は手元の熟した生データをじっくり味わうことにしたい。

(所員/そ・よんきよ)

Column

オンラインでのインターゼミナール大会開催

11月25日(水)第16回経営学部インターゼミナール大会がオンラインで開催された。48チーム176人の

経営学部3年生が7会場に分かれて研究成果を発表し、

発表終了後には大会本部 zoom に集まって表彰式を行った。

ゼミ活動にも制約が多かったと思われるが、良く準備され、工夫を凝らしたプレゼンテーションを見ることができて、大会を開催できたことに喜びを感じる一日となった。



大会本部の様子

【国際経営研究所からのお知らせ】

❖ 公開講演会開催予定

日時：2020年12月3日(木) 11:00~12:40

場所：zoom による開催

テーマ：『経営理念の役割とその重要性』

講師：朱 純美 氏

(株式会社コアバリューマネジメント代表取締役副社長)

【お申込み方法】

①氏名 ②所属(学生は学籍番号) ③電話番号を記載し、iibm-office@kanagawa-u.ac.jp までメールをお送りください。追ってIDおよびパスワードをご連絡致します。

❖ 国際経営フォーラム刊行

国際経営フォーラム 31号

12月下旬発行予定

❖ 2021年度共同研究プロジェクトおよび客員研究員の募集について

来年1月に募集用紙をメールにて配布します。

訃報

榊原 貞雄 先生

名誉教授(元経営学部教授)

元神奈川大学 国際経営研究所長

2020年9月20日ご逝去されました。

生前の多大なご功績を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

第66号をお届けします。

今号では、中見先生と尻無濱先生、徐先生に執筆頂きました。日頃の教育・研究内容を紹介頂いています。現在、オンライン授業の準備等の対応でお忙しい中お時間を割いて頂き、誠にありがとうございました。

微力ですが、次号以降も所員各位の研究活動に役立つような紙面づくりに貢献できればと思っています。(Y)